

【別添2】（様式例1）

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜商業高等学校（定時制課程）

学校番号

902

I 自己評価

1 学校教育目標		<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育をとおして「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる有為な商業人の育成を目指し、特に次の目標の実現に努める。</p> <p>1 普通教育及び商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創意をはたかせ、進歩向上を図る商業人を育成する。</p> <p>2 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。</p> <p>3 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する商業人を育成する。</p>				
2 スクール・ポリシー		『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）		
		<ul style="list-style-type: none"> 商業の実習授業や資格検定の取得を通して、商業に関する技能を主体的に身に付けようとする生徒 将来の地域社会の担い手として、礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力、奉仕する生徒 自分の適性や興味、関心を見極め、進路実現に向けてチャレンジする生徒 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数授業やICTの活用により、生徒の興味、関心を高め、学びの楽しさやわかる喜びを感じる授業の推進 3年間での卒業を可能とする三修制と基礎基本の定着、実習と資格検定の取得に重点においたカリキュラムの編成 自己の存在感を実感し、楽しく仲間と協力して活動できる学校行事や特別活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 本校で学びたいという意志を持ち、仲間と協力して生活できる生徒 商業の学習に興味、関心があり、資格取得などに目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 自分を見つめなおし、働きながら学習することにより、コミュニケーション能力や社会性を身に付けたいと考えている生徒 		
3 現状の分析		<p>○在籍生徒は全般的におとなしく真面目である。商業科目の資格取得にも前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>○全校生徒の約70%が就労（アルバイト）をしながら家計を助け、学業との両立に努めている。</p> <p>○職員は一人一人の個性を尊重して、熱意をもって支援に努めている。</p> <p>▲全校生徒の約50%が小中学校時代に不登校を経験している。また、外国籍の生徒、学習障害の疑いのある生徒、学び直しを目標に再入学してきた生徒等、多様な生徒が在籍しており、学習面において基礎・基本的な学力が十分身に付いていない。</p> <p>▲集団生活の経験不足から人間関係を構築することが苦手で、コミュニケーション能力が十分身に付いていない生徒が多い。</p>				
4 学校の抱える課題		<ul style="list-style-type: none"> 社会人として必要な基礎・基本的な学力を身に付ける。 社会人として求められる規範意識や、良好な人間関係を構築する社会性を身に付ける。 				
5 今年度の具体的な重点目標		<p>◇社会の変化に対応できる基礎学力と学び方を身に付ける学習活動を推進する。（学習支援）</p> <p>◇個々の生徒の特性を的確に把握し、その伸長と自立する力の育成に努める。（生徒支援）</p> <p>◇個々の生徒の興味や適性に応じた、きめ細かな進路指導を推進する。（進路支援）</p>				
年 度 目 標		年 度 末（途中） 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
1【学習支援】 社会の変化に対応できる基礎 学力と学び方を 身に付ける学習 活動を推進しま	①少人数授業やICTを活用し た学習活動を推進し、学習の 理解につながる指導を展開し ます。	①個に応じた資格取得目標を 掲げさせ、目標に向かって 取り組ませます。	①肯定的な回答する生徒の割合は、70. 6%であった。保護者対象のアンケ ートでも72.5%が肯定的であった。	B	○生徒の興味関心を高め、 個々に合った指導を展開 するため、多くの職員が ICT機器を有効に活用 した。 ▲資格取得は商業科の取り	
	②全教科で授業アンケートを実 施し、授業改善を推進しま	②授業アンケートで、「授業 の組み立てがよい」、「理	②前期後期と2回実施したアンケート で「授業の組み立てがよい」、「理	B		

す。	す。	解を確かめながら進めている」と答える割合が70%を得られたか。	解を確かめながら進めている」の両項目において、肯定的な回答した割合は約80%であった。		組みではあるが学校全体の教育活動として位置づけること、またキャリア教育と結び付け、卒業後の進路にもつながるような継続的な指導体制を構築したい。	
2【進路支援】 個々の生徒の興味や適性に 応じた、きめ細かな進路指導を 推進します。	①外部講師による進路ガイダンスや就職指導講習会を実施し、様々な仕事に対する認識・理解を深めます。 ②各学年、時期に合わせた進路情報を様々な場面で提供します。 ③早い段階から、一人一人の進路希望に応じた個別指導を実施します。	①学校評価アンケートで、「生徒が進路情報の適切な提供を受け、指導を受けた」と答える割合が70%を得られたか。 ②学校評価アンケートで、「保護者が必要とする進路情報の提供する場が得られた」と答える割合が70%を超えたか。 ③学校評価アンケートで、「生徒の進路希望に沿ったアドバイスが得られた」と答える割合が70%を超えたか。	①予定通り、「進路ガイダンス」を実施することができた。また、肯定的な回答をする生徒の割合は、64.7%であった。 ②三者懇談会等で「進路のてびき」を配布し、内容の説明ができた。また肯定的な回答をする保護者の割合は80.0%であった。 ③「教育相談」「三者懇談会」等で得られた情報より指導を進めることができた。また、肯定的な回答をする保護者の割合は、80.0%であった。	A C B B	○本人の希望と保護者の意見を聞きながら、現実を踏まえつつ、その適性に 応じた進路先を探していくことができた。 ▲生徒自身が現実的に考え始めるのが遅く、就職・進学活動のスタートが遅くなる傾向がある。本人の意識、保護者の意識も含めて、早めに活動ができるような工夫が必要である。	B
3【生徒支援】 個々の生徒の特性を的確に把握し、その伸長と自立する力の育成に努めます。	①積極的な情報発信を心がけ、保護者との連携を深め信頼関係を築きます。 ②教育相談や様々な機会を通して生徒理解に努め、一人一人を認め、励ます生徒指導を推進します。 ③充実感や楽しさを感じる特別活動（生徒会行事・部活動）や学校行事を推進します。	①学校評価アンケートで、「保護者の悩みに対応してくれる」と答える割合が70%を得られたか。 ②学校評価アンケートで、「一人一人の良さや可能性を伸ばしている」と答える割合が70%を得られたか。 ③学校評価アンケートで、「学校行事が充実している」「成長の糧となるような行事を行っている」と答える割合が70%を超えたか。	①肯定的な評価の割合は75.0%。担任が中心となって、保護者と連絡を密に取り合うことで、信頼関係を深めた。 ①学校からの情報発信については、文書配布は80.0%、HPが82.5%、一斉配信メールが85.0%と、肯定的評価の割合が高かった。 ②肯定的な評価の割合は82.4%。アンケートや諸調査の結果も踏まえて、全職員で対応している。 ③ボーリング大会、鶴飼鑑賞会、映画鑑賞会、球技大会、蛍雪の会（ビンゴ大会等）を生徒会行事として実施した。新しい行事の提案もあり実施できてよかった。	B B A	○学校生活全般を通して、生徒と良好な関係を構築し、生徒理解に努めたことで、全職員が生徒の様子や情報を共有し、保護者に対しても、迅速に対応することができた。 年4回の教育相談週間、年2回の三者懇談を通じて、生徒理解に努めることで、生徒間トラブルやいじめ等での大きな問題は回避することはできた。来年度は一層の充実を図りたい。 ▲生徒とのコミュニケーションを図り、コロナ禍でも生徒が主体となり推進できる	

			アンケートについては、肯定的な評価の割合は約80%であった。	学校行事を検討する。	
II 学校関係者評価 実施年月日：令和5年2月27日			13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を利用したオンラインでの学習支援はこれからの教育現場ではますます重要性が増すと考えられるが、定時制の利点であるリアルでの授業や学校活動はこれまで以上に大切にしていきたい。 ・進学実績のある大学等とオンラインで結び、より高度な教育研究を垣間見る機会を創出するなど、さらなる学習意欲の掘り起こしのツールとして活用することも有益ではないか。 ・企業の皆さんに来校いただき企業フェア等を実践することも手段の一つだと思う。 ・人間の心の健康の充実を図るために、福祉との交流会やLGBTQをはじめとする人権問題を正しく理解する講演会等を充実させてはどうか。 ・今後も教育相談を通して、生徒への対応等をよろしくお願ひしたい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の集中力を持続させ、基礎基本的な学力を定着させるために、整備されたICT機器をさらに有効に活用しながら、対面での少人数教育の良さを活かしていく。 ・進学、就職において進路ガイダンスをより充実させ、また進路意識を高めるための「キャリアパスポート」の効果的な運用を引き続き検討していく。 ・保護者との連携をさらに強める方策を考え、推進する。 ・来年度も様々な講演会等を予定している。講演内容など講師と検討し、より充実したものとしていきたい。 ・保護者との連携をさらに深めることで、迅速かつ的確な支援を行う。また、本校のスクールカウンセラーや外部機関との連携を図ることの重要性を理解する。 		